

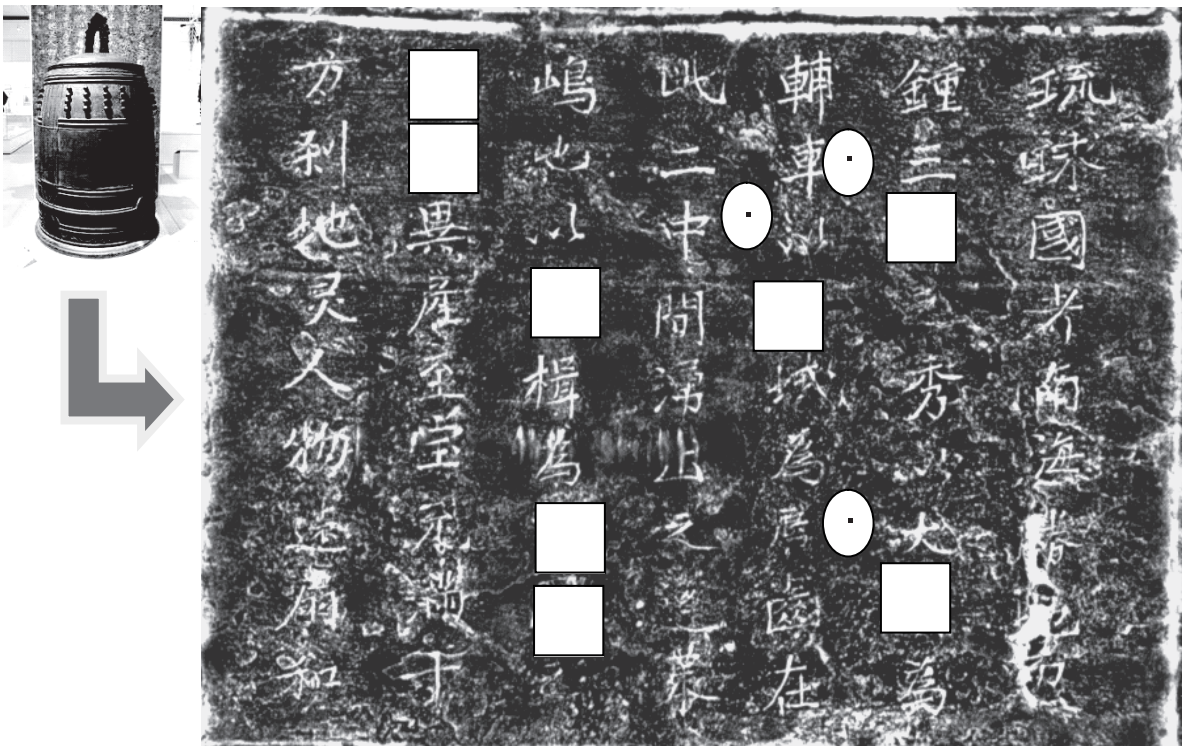
きゅうしゅりじょうせいでんしょう
旧首里城正殿鐘を觀察してみよう

1458年、琉球国王の尚泰久王しょうたいきゅうの命で旧首里城正殿鐘ばんこくしんりょう（万国津梁の鐘）がつくられました。この鐘には、琉球が行った各国との交易を、たからかに謳いあげた文章が刻まれています。

ここでは、旧首里城正殿鐘を觀察して、琉球王国の様子を読み取ってみましょう。

旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）を觀察してみよう。

- ① 正殿鐘に刻まれた文字を觀察して、□ に文字を入れてみましょう。



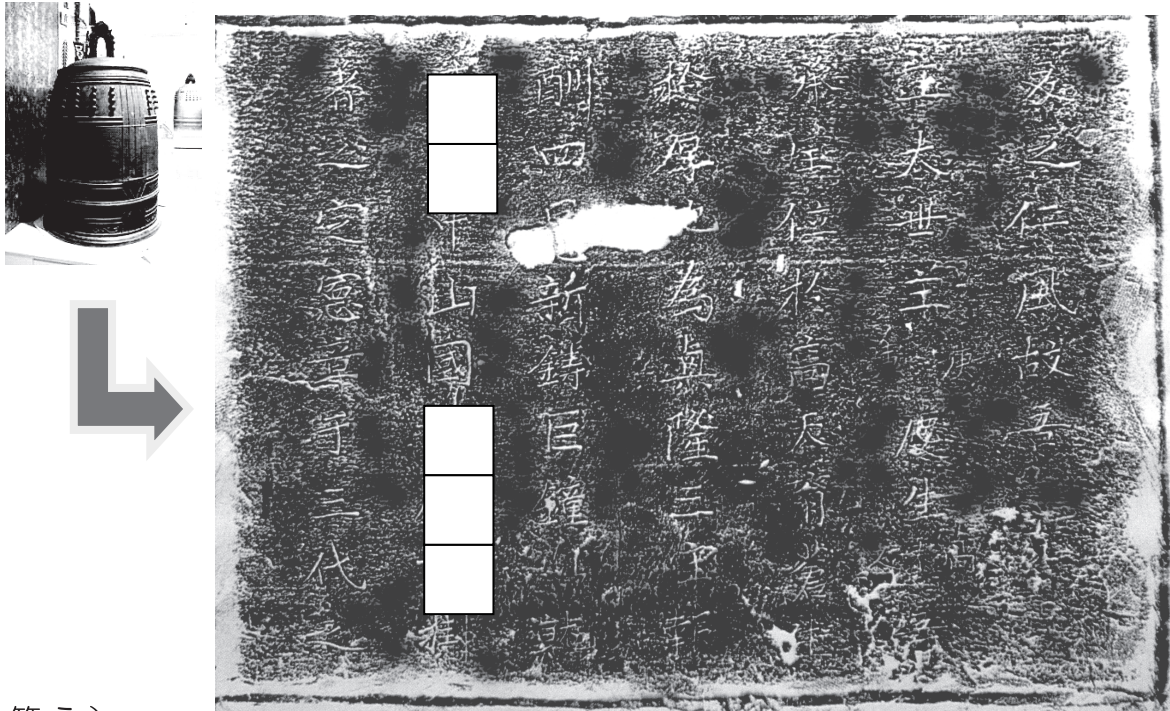
※ ヒント： 下にある文章の意味をよく読んで、参考にしよう！

「琉球王国は、朝鮮・中国・日本と交渉を持つ豊かなところ。外国諸国に橋を渡すように船をかよわせて交易し、国内に外国のめずらしい品物や宝物が満ちあふれています。」（以下省略）

②①で答えた a・b・c は、それぞれどこの国を指しているのか当ててみましょう。

A B C

③①とは別の面に刻まれた文章から、この鐘がどこに掛けられたのかを解き明かしてみましょう。



(答え)

旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）は、琉球王国の

島にあった の に

掛けられていました。

※ヒント：^{ちゅうざんこく}「中山国」とは琉球王国のことを指しています。琉球王国はどこにあったのかを考えてみよう！



旧首里城正殿鐘の形は「^{ほんしやう}梵鐘」という、^{とぎ}仏教寺院で時を知らせるために打つ大形の鐘の形をしているのよ。